

9月18日(日)午前9時 から1時間、銚子ジオパーク推進市民の会とナルク銚子共催の黒生海岸の清掃を実施しました。当日々ときおり小雨がちらつくあいにくの天気にもかかわらず、はじめて参加されたかたも25名を含め32名がたくさんゴミを拾いました。

黒生海岸清掃・見学会

藤身隆雄

本来なら、

黒生海岸清掃・見学会

9月18日(日)午前9時 から1時間、銚子ジオパーク推進市民の会とナルク銚子共催の黒生海岸の清掃を実施しました。当日々ときおり小雨がちらつくあいにくの天気にもかかわらず、はじめて参加されたかたも25名を含め32名がたくさんゴミを拾いました。

黒生海岸清掃・見学会

市民の会では、原則、毎月第三曜の午前十時から、その直前一時間の清掃で綺麗になつた海岸で、現地見学会を行つています。開催地が、銚子を代表する四つのジオサイト（屏風ヶ浦・犬吠埼・犬岩・黒生）を巡回するため、年三回は同じ場所で開かれます。

今月18日は黒生の番でした。今回の見どころは海鹿島礫岩の巨大な岩体と突堤脇の高マグネシウム安山岩の岩礁で、銚子ジオパーク連協の認定ガイドが担当し、また質問に回答しました。この日は雨の影響で、後続するジオ全国大会を開けの十秒動画撮影を繰り上げたため、一時間でガイドを終了しました。



伊藤
小糸

皆さん、「ビーチコーミング」って聞いたことがありますか。直訳すると砂浜などの海岸で、熊手などで探し物をすることという意味らしいんですが、日本でも、日本海の沿岸などで盛んにおこなわれているらしいのです。

7月26日に君ヶ浜で開催された、「親子で夏の自由研究ツアーア」の第三弾は、新登場「鏡子の海岸でお宝さがし☆ビーチコーミング」。5倍以上の応募者の中から抽選で選ばれた11家族27名の参加者が、千葉科学大学の糟谷大河先生と助手の方の指導のもと、推進室のスタッフ、市民の会のサボーターと一緒に、熱中症に注意しながら楽しく学びました。

最初に糟谷先生から「ビーチコーミング」という言葉の意味や注意点について、わかり易い説明がありました。海岸に漂着した海藻、貝、カニなどの生き物だけでなく

人工的なプラスティック容器などの生活用品も採取すると、私たちの生活圏がどのような状態になっているか、それがどのように変化しているかを知ることができます。お話を聞いたあと、恐る恐る漂着物を突つついで子供たちも、だんだん夢中になつて、「先生これはなんですか」と質問しながら採取しました。「クルミの実がどうして海岸にあるのだろう」との質問に、先生が、「川や海流に乗つて流されてくる木の実や種、流れ木について貝、海藻、そして人々の使用した生活用品など、海岸の漂着物は、その周りの今の姿をよく見せてくれるのです」と教えていただき、そのつながりをしっかりと体験することができました。



小玉
健次郎

午後からは文化会館の実験室で、採取した物の名前を調べたり、分類したり、図鑑や実験室に展示してある貝の標本と見比べて名前を決めたりして、自由研究を仕上げました。